

中日(滋賀版)

6/25

## 市内全中学生入れる部活創設

データサイエンス入門クラブ



協定を交わした(右から)市川学部長、小西市長、小出代表取締役＝近江八幡市役所で

近江八幡市 産学連携

近江八幡市は9月、市内全域の中学生が入部できる文化系部活動「データサイエンス入門クラブ」を創設する。滋賀大データサイエンス（彦根市）が指導

を受け持ち、産官学連携の地域型部活動として運営する。

データサイエンスは、調査結果などのデータを統計学やプログラミング、人工知能（AI）などを駆使して分析し、問いを立てて立証しながら社会の課題解決につなげる学問分野。

同学部は国内初開設の章分けて、市教委によると、最先端の研究に触れる特色ある部活として設置し、市立4校で特に手薄な芸術系以外の文化部を拡充する。

原則月1回、土曜を中心に八幡東中で活動。入部は市内に在住、在学であれば、公私立を含めて在学期間も問わない。初年度は全5回で、データサイエンスの基礎的な考え方や手法に触れる。近江テックに執行役

員として入り、子供向けのスクール運営などを担う滋賀大の大学院生らが外部指導者を務める。

市役所で24日、3者が協定を交わした。市川治学部長は「部活動は初めてで、新しい試み。科学に興味がある子同士で部活でやると、単発の講座と比べて互いに刺激や励みになる」と話した。同社の小出英樹代表取締役は「最適化して良い教育プログラムができてきたところ。われわれの活躍の場にもなる」と前向きで、小西理市長は「自分ですべて生かす力が身に付く」と期待した。（松崎晃子）

# 部活でデータサイエンス

中学の部活動「データサイエンス入門クラブ」の企画運営で連携協定を結んだ小西市長（中央）ら関係者。6月24日、近江八幡市役所



近江八幡市は9月から、中学生対象の地域クラブ「データサイエンス入門クラブ」を創設する。高校に比べて中学の部活動では文化系の種類が少なく、生徒のニーズをすくいとするとともに、進路選択における生徒意識の拡大を目指す。市内に在住・在学の中・高生対象の部活動として、八幡東中を会場に9月27日か

近江八幡市、9月に地域クラブ創設

## 滋賀大提携「探究する力を」

ら来年2月18日まで、1日2時間で全5回を行う。内容は未定だが身近なデータを題材に、グループワークで課題発見から分析、解決策提案までの手法を学ぶ予定だ。最終回は滋賀大彦根キャンパス（彦根市）でデータサイエンス学部の教授陣に対し成果発表を行う。

指導は、データサイエンス分野で最先端の研究施設である滋賀大データサイエンス学部や同研究科の学生が務める。中学生が大学の講義の一端を体験することで、自身のキャリアを考える機会にしてもらう狙いもある。市教育委員会によると、来年度は年間で開催する意向で、初年度の成果を生かし学年ごとに異なるプログラムを提供することも検討している。

クラブの企画運営に向け、市と同学部、滋賀大院生や学生が所属する企業「近江テック・アカデミー」の連携協定の提携式が6月24日に市役所で行われた。小西理市長は「生徒が探究する力を身につけると同時に、好きなものを見つける一助になれば」と話した。

（立川真樹）